

ばってん

第9号

発行 長崎県公立学校事務長会
長崎東高等学校内
〒850-0007 長崎市立山5丁目13番1号
電話 095-826-5281
編集 広報活動委員会

退任のごあいさつ

長崎東高等学校 鈴木 壽一



平成13年3月末日で、長崎県立長崎東高等学校を定年退職いたしました。

事務長として3校・8年間勤務し、その間貴重な体験を通して勉強させていただいたことを述べさせていただきます。

“素晴らしい方々に出会ったこと”

平成9年に全国公立高等学校事務職員協会創立50周年記念研究大会が、長崎県で開催されることとなり、平成7年11月に実行委員会を組織し準備に入りました。以来、実行委員はそれぞれの分野で大会の成功に向けての情熱を傾注し、汗を流しました。事は一人で出来るのではなく、それぞれの立場にある方々のご苦勞と多くの人々の努力によって成就することのお手本でした。

おかげで、地域を越えた交流をすることによって、お互いの理解が深まり、素晴らしい人材に恵まれていることを、改めて認識させられました。

大会は大盛会のうちに終了し、全国の会員の皆様からお褒めを頂いたのはご承知の通りであります。

“常に今日的課題について意識していること”

これも、前述の大会にかかわることですが、過去の大会運営について、新参者の目から見ると少々感じるがありました。日程が長いと本来業務への影響、旅費の問題、大会からの中途離脱、開催県の負担増等々です。

これらは協会本部の方と日程等の短縮も含めて協議し、結果的に「長崎方式」として今日まで続いているようです。私どもは常に職務が条例・規則等のみならず、学校を取り巻く客観情勢にも注意を払うことが大切だと思います。

“事務長の法制化のこと”

昭和30年、全国に先駆けて発令された長崎県公立

高等学校の事務長は、昭和43年に管理職の指定を受け、昭和44年から管理職手当の支給が始まり、今日に至っています。長崎県では管理職として規定が整備され、それに応じた処遇がなされているものの、全国的に一部の県ではあるが法規と実態に隔たりがっているようです。それは、事務長の職制としての法制化がなされていないことが原因と思われます。

昭和50年の学校教育法施行規則改正で事務長制が設けられることになりましたが、その職務内容については「校長の監督を受け、事務をつかさどる」とだけ規定し、学校運営上の位置づけや学校経営上の実質的な責任と権限が明記されていません。

学校行政事務管理面で直接校長を補佐し、学校経営に参画している事務長を、校務分掌上の各種主任と並べて曖昧なまま省令化ですましていることは如何なものでしょうか。全国事務長会の論点もこのあたりにあります。全国事務長会発足以来20有余年を経過し、地方分権が叫ばれている今日、さらに年月と努力が必要であると思われます。

事務長会が学校経営の基盤に立ち、事務職員協会と連携のうえ、会員相互の意志の統一を図り、事務長たる知識と品位を養い、また、九州・全国事務長会の一員として協力し、全国的な視野を広げ、関係機関と和を保ちつつ長崎県教育の振興に寄与し、健全なる事務長会として充実・発展することを願うものです。

振り返りますと、自分自身は拙い事務長でありましたが、皆様方の暖かいご支援により充実した8年間を経験させていただきました。心より感謝申し上げます。皆様方のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。ありがとうございました。

専門委員会活動状況

図書館業務検討委員会

- 平成12年7月5日(大村城南高等学校)
 - 今年度より新しく設置された委員会で、顔合わせを兼ねた最初の会議を開催した。以下次のような意見が出た。
 - 司書教諭と学校図書館事務職員の職務内容についてはすでに文部省(当時)が示している。各県の状況を知るためにアンケートをとり検討する。
 - 次の委員会までにはできるだけ資料を収集する。ということで1回目の会議を終了。
- 平成12年11月28日(諫早高等学校)
 - アンケートの題をどうするか検討し「司書教諭と図書館事務職員の職務内容」に決定。その後内容の検討に入る。
 - 対象校は、司書を置いていない学校で、全国を対象に各県3校に出す。対象校については、各県の事務長会長から推薦を受ける。
 - 1月末までに集約を終え、集計作業を経て検討に入ることにする。(矢野)

研修内容検討委員会

11年度に事務長会研究部で調査・検討されていたが、12年度から専門委員会の一つとして6名のメンバーで新たに発足した。13年1月末日までに3回開催し、その概要は以下のとおり。

- 平成12年10月2日(レオプラザホテル)
 - 11年度の経過報告及び今後の予定について協議
- 平成12年12月1日(サンホテル飯田)
 - 新設研修として、県教委主催で①事務長3～5年経験者、②副参事兼主任(主任含む)1～3年経過者を対象とした研修会を設置要望する方向で検討を進める。(②は、事務長会からの県教委要望事項でもある。)③事務長会と事務職員協会が連携し、独自の研修体制新設について協議。
- 平成13年1月25日(佐世保商業高等学校)
 - 前回協議した研修内容を更に検討し、同時に①の試行として各地区事務長会で研修の一環として、「講話」の実施案を協議、その結果①②共に設置要望として事務長会へ提出することを決定。③は継続協議とし、自治研廃止に伴う【吏員Ⅱ部研修】は、復活を要望することで決定。(脇坂)

授業料納入促進委員会

- 平成12年7月4日(協栄生命ビル)
 - 滞納状況調査の結果と推移
 - 各学校の取組み状況と問題点
- 平成12年9月12日(セントヒル長崎)
 - 授業料に対する教職員全員への意識づけ
 - 県教委、校長会での取組みへの要望

・授業料の年度繰越について

- 協議内容並びに問題点
 - 当専門委員会としては、繰越調定の実現に向けて、平成10年度から滞納状況調査の追跡調査を実施してきたが、状況は不況も一因とみられ、好転の兆しは全く見られない。現状での、早期実現は見通しの立たない状況下であり、当委員会では、財務課並びに校長会に対して下記のことについて要望したいと思っている。
- 財務課への要望
 - 繰越調定の実現に向けての条件整備を図っていただきたい。
 - 校長会及び教職員全員に対して、授業料徴収については、例えば「授業料等納入促進委員会」を設置するなどして、学校をあげて対応するように通知をしていただきたい。
 - 滞納者に対しては、各種の制限事項(退学・除籍・休学・出席停止等)が可能であるから、必要な措置を取るよう指示する主旨の通知を発していただきたい。
- 校長会への要望
 - 「授業料等納入促進委員会」等を設置し、滞納対策の討議をしていただきたい。
 - 授業料納入について長期滞納者に対しては、進路変更を含めた強い指導を徹底していただきたい。

補足：紙面の都合により、詳細については総会の折りにも説明する所存です。また、各学校共通認識で対処していただきたいと思っています。

(萩原)

広報活動委員会

- 平成12年7月7日(島原商業高等学校)
 - 第8号発行について
 - 発行年月日(平成12年10月1日)
 - 定例記事(新任紹介・新任出納員研修会・九州、全国事務長会・随想)
 - 配布方法(秋季事務長会時配布)
- 平成12年12月12日(島原商業高等学校)
 - 第9号発行について
 - 発行年月日(平成13年3月1日)
 - 定例記事(専門委員会活動報告・先輩から・随想)
 - その他の記事(IT機器関係・トピックス)
 - 配布方法の変更(旧)年度内(3月)郵送→(新)次年度(4月)の春季事務長会時配布
 〈理由〉これまで、3月1日発行・年度内到着に努めてきたが、せっかく届けられた“ばってん”，年度末の慌ただしい中、ゆっくり読んでもらえなかったり、行方不明になり保管も充分にされない状況であった。
 また、郵送料の節約にもなるので、春季事務長会時に配布することに変更した。
- 平成13年3月5日(島原商業高等学校)
 - 第9号の校正作業
 - これまで、「新任紹介」を10月号に掲載していたが、3月号に変更。
 - 発行年月日の変更
 「新任紹介」を早期に掲載するために変更。
 (旧)3月1日付発行→(新)3月31日付発行
 (山戸)

IT機器整備の落とし穴

大村工業高等学校 長 岡 昭

1 ネット整備の経緯

第二の産業革命ともいえるIT時代の到来。確かに便利な道具であるが、維持費は非常に嵩むし、学校教育にどこまで必要か疑問点も多い。

インターネットを利用して、行政機関や各種研究団体からの様々な情報の収集やフリーソフトの入手。世界の美術館、アメリカのホワイトハウス、FBIなど、情報公開しているところであれば、誰もが簡単にネットを利用して世界一周旅行もできる。

メールアドレスさえ知っていれば、いつでも誰とでも自由広範に、県のパナピオスなど比較にならないほど手軽にメール通信でき、本当に便利である。地球全体が電子網でおおわれ、“電脳”という表現がピッタリ。誰もが自由に情報を送受信できる情報自由化時代に入ったことを感じる。凄いの一言である。

本校では、現在の国や財務課のIT機器整備より一足先に、同窓会の支援を得ながら教育工学部が中心となってイントラネットを整備。

我々事務室も時代の流れに追いつくべく、事務室内パソコン業務の情報管理とプリンタの共有を目的に事務室LANの整備をおこない、全てのファイルを担当ごとと業務ごとにフォルダ分類して、即座に対応できるようにシステム化した。

その結果、お互いに業務情報の交換や担当不在時の臨機応変の対応ができるなど、事務能率も大幅に向上し、経費節約型の設備整備もできた。

時折、事務室内でPC研修なども行っているが、今後も継続して技術力の向上に努めたい。

2 整備のポイント

システム構築のポイントは、大別して次の2つ。

(1) システムとして如何に活用できるものにするか。

(2) セキュリティをいかにして保つか。

(1)は使う者のビジョンの問題であり、各校独自の最も楽しい“夢”の部分。問題は(2)の部分である。基本的には、専門家だけに分かるシステムではなく、素人の我々にも原理が分かるものにするべきである。それには事務室も中に入って執拗に仕組みを尋ね、理解することが大切。

対策として、大筋次のようなことが考えられる。

① 生徒と職員の回線の分離。職員間の階層設定

様々な原因でただでさえ多いトラブルを防ぐためには、最初に物理的区分と階層分離することが素人にもシステム管理しやすい。

② 外部侵入者に備えてファイヤーウォールの設定

③ 雷など一時的停電への対応措置

④ システム管理者の選任と秘守義務

管理者は、技術力だけでなく人間性が要求され、人事異動とシステム管理の継続性まで絡むので、難しいが最も重要なところ。

⑤ 利用者のモラル確保(利用規定の整備)

⑥ 利用者の技術向上対策など

例えば、パソコンの終了を画面の指示に従わないで、電源スイッチを直接ガチャッと切るという非常識な人さえいる。驚きの一語である。

ウィルスバスターとLANは相性が悪く、フリーズし易い。また、画面がすぐ反応しないため、キーを何回も叩くという、現代日本人の心のゆとりなきが、しばしばトラブルを起こしている。

数えると幾らでもある。システム問題は人間性がそのまま反映され、疑うときりがないが、用心しないとプライバシーの保護もシステム管理もできない。本当に“ITイズ便利で厄介な代物”である。

トピックス

ホノルルマラソン完走!!

朝5時、常夏の星空に色とりどりの花火が打ちあげられ、大きな歓声が上がった。シアトル・マリナーズ佐々木投手のスタートの号砲が鳴り、2万6千人余りのランナーとともに、初マラソンの私は、緊張と不安の中、アラモアナ公園前をゆっくり走り始めた。前半は、クリスマスのイルミネーションにロマンチックな雰囲気になり、単調で長いハイウェイでは、地平線を昇る真っ赤な太陽に感動した。思ったより快調なペースで中間地点を迎えた。沿道には、途切れることのない声援、フラダンス、バンド演奏、ドリンク、クッキーを配る子供達など、ボランティアとランナーが一体となっていた。

後半38km地点を過ぎ、最大の難所ダイヤモンドヘッドの登り坂になると、背中に照りつける太陽、今まで経験したことがない疲労で、全く脚が上がらなくなった。「絶対完走するぞ!」と自分に強く言い聞かせて、無我夢中で登り切った。やがて、カピオラニ公園のFINISHの横断幕が見えた。最後の直線コースでは、拍手と大歓声の中、一步一步に何ともいえない感動が高まり、思わず両手を挙げてゴールした。4時間7分23秒。

すべてのランナーを主役にしてくれるこのホノルルマラソンは、一生忘れることのできない思い出となった。

2000年12月10日(諫早養護学校 前田郁雄)



事務長時代を顧みて

諫早市在住 平野 鉄 男

昭和47年3月 諫早高等学校(事務長)退職

私は4年2カ月のシベリア抑留生活を終えて、昭和24年10月に復員して故郷に帰りました。小学校教員の免許を持っていましたので、小学校の教員にでも就けたらと思い、市の教育関係の方をお願いしてみました。

その頃、横田先生(小学校長退職)が諫早高校の事務室に勤務しておられましたが、その方の紹介で、私も同校の事務官として1年4ヵ月ばかり働くことができました。その後、東彼北高教育事務所に、そしてその後、長崎の県南教育事務所の庶務課長として、諫早から15年ばかり通いました。定年を後4年にひかえた昭和43年、諫早高校の事務長を命じられ同校に再び赴任しました。

当時の諫早高校は危険校舎であり、校舎改築の時期にきていたのですが、その事を当時の県教育庁の総務課長に話したら、新しい学校の視察を勧められました。折しも新幹線の開発時期だったこともあって、新横浜駅の近くに最近新築したばかりの学校があるとのこと。さっそく視察してきて、校舎改築の参考にしました。

新建築関係のプランを職員会議に提案したところ

満場一致で可決し、県もありがたいことに、学校の要望どおりに承諾してくれました。体育館は、立派にできておりましたが、旧体育館は昔のまま残されておりましたので、これを整理しその跡地に(現校舎と併設して)4階建ての校舎を建て、分散していた数教室を新校舎に集めました。普通教室を全・定共有で使用していましたが、定時制専用として別教室を設けました。このほかいろいろ手を加え、現校舎の形ができたと思います。

諫早高校在職中は、札幌での事務研修会に参加して、余暇を利用して北海道各地を見学したり、また満洲時代一緒だった2人の友人にも会うことができました。また、野球部が甲子園に出場したとき甲子園で熱い声援をおくったことなど、楽しい思い出がたくさんあります。

定年退職後の諫早大村職業訓練校事務局長時代は、多くの技能者の方々と出会いがあり、さらにその3年後の市議会議員時代にも、たくさんの方々との交流があり、これらは私の人生を意義あるものにした貴重な体験でした。

随想

つばき



前向きに生きるということ

教育庁学校教育課長 中嶋将晴

昨年は、博多での会議に出席する機会があり、久しぶりにJR白いかもめを使って往復したことがあった。

列車に乗って、窓の外の景色を眺めながら思いを馳せているとき、ふと思ったことがある。

列車の進行方向に向かって座っていると、風に揺れる樹々とか、連なる家並みや会社の広告塔など、様々な風景が私の方にやってきます。一方、列車の進行方向に背を向けて座っているとそれらの風景が私から遠ざかってしまうのです。

他愛もないと云えるかもしれませんが、人生という風景もまたその風景と向かい合っていれば、それは向こうからやってくるし、背を向けていけば、その風景は遠ざかっていくのではないか。前向きに生きるということは、そのような人生という風景との対話ではないのかなどと考えたりしました。

いま、旅の行く手に道が2つに分かれていたとすると、東へ向かう道を選べば、西へ行く道を選ぶことはできません。また、西の道を選べば、東へ行く道を選ぶことはできません。1つを選ぶということは、他を失うということでもあります。そんな意味

で、生きるということは、休むことのない人生の旅路の選択といえるのでしょうか。

学校もまた人生の縮図ではないかと思えます。澄んだ空気の日もあれば、濁った空気の日もあります。難しい人間関係もあります。子供たちは、思うようになってくれると限りません。うまくいく時代もあれば、いかない時もありますが、いつしか道は開かれるものです。それは、人生という風景に背を向けず、その風景と真摯に向かい合う時であり、そこには、信ずるに足る人間の世界が存在するという事です。そう考えると勇気が湧いてきます。

今は亡き国民的作家の吉川英治さんは、「人生一書生」、「我以外皆我師」を座右の銘とし、人生へのみずみずしい思いをいつまでも失わずひたすらに自らの仕事に打ち込んだ人でした。

人生は、むしろ雨の日や風の日が多いのかも知れません。しかし、そんな時、泣き事一つ言わず、爽やかに振る舞う人がいます。そんな人たちこそ本当は幾つもの傷を受け、自らを投げ出したくなりながらも投げ出さずにいる人ではないかと思えます。たぶん、そんな人がそれぞれの職場を支えているに違いありません。苦悩を前向きに受け止めて生きる人こそ人間教師と云えるのではないのでしょうか。



編集後記

21世紀幕開けの春、「ばってん」9号完成。平野鉄男先生、中嶋将晴先生、ご多忙の中寄稿していただき誠にありがとうございました。発行が予定より遅くなりましたことお詫び申し上げます。

3月初旬、みんなで校正作業を終え、いつもの「4面」ものがほぼ完成しつつある時、誰からともなく「新任紹介」は早い時期に載せよう、と言い出しました。(このことについては、常に気になりながらも年度末の煩雑時期を避けていました。)「新任紹介」のみ号外(A4・片面)で発行することに決まり、人事内示の発表を待つことになりました。その後、号外としてではなく、「6面」ものに組込み、ページを増やすことに変更。発表後は片面を埋めるべく工夫と新任事務長へのインタビューや写真の借用等、慌たしい日々でした。

転勤のためバタバタしている時に、電話やFAXでお願いしたところ、アンケート回答(プロフィール)・写真送付等気持ちよく協力していただき、おかげさまで春季事務長会に間に合うことができました。一方IT機器関係の記事では、長岡事務長に無理にお願いしてページを増やしてもらい、なんとか恰好がつかしました。

トピックスとして、前田事務長のホノルルマラソン完走の感想を載せております。(最初から6面の予定で計画していたら、もっとマラソンのおもしろいお話を紹介できたのですが。)次のトピックスの記事は誰がバトンタッチしてくれるのでしょうか。たくさんのご応募をお待ちしております。ホノルルと言えばホノルル沖で起こった宇和島水産高校実習船「えひめ丸」の沈没事故のこと。「行方不明の生徒4名も3年生に進級し、寂しさの残る新年度のスタート」「始業式に曙親方が激励訪問」というニュースが放映されています。ある春の日の午後「ばってん」9号完成。(山戸)